

第57回 静岡県公衆衛生研究会 優秀演題ホームページ掲載要旨

分科会名	第 2 分科会	演題番号	204
題名	「ふじのくにゲートキーパー講師養成研修」受講者の受講3か月後における自己効力感の変化について（第2報）		
所属	精神保健福祉センター		
氏名	久保田紗矢 森佳奈 川田典子 内田勝久		
要旨 (簡潔に)	<p>令和元年度ふじのくにゲートキーパー講師養成研修（以下、講師養成研修）受講者に対し、受講前、後及び3か月後の自殺予防に関する自己効力感の変化、受講後の講師経験の有無による自分自身の変化について、質問紙調査を行った。</p> <p>昨年度の調査では、講師養成研修を受講することで、ゲートキーパー（以下、GK）の役割を果たすことに対する自己効力感が高まることが分かった。今回の調査は講師養成研修受講後、受講者が実際にGK講師を経験することによって生じる自身の意識、態度、行動の変化を明らかにし、今後の講師養成研修をより充実させることを目的とした。</p> <p>講師養成研修から3か月後に受講者に質問紙調査（「自殺予防におけるGK自己効力感尺度（以下、GKSES）」、自分自身の変化に対する質問）を実施した。それぞれの質問紙調査は講師経験の有無で2群に分けて解析した。</p> <p>GKSESでは、受講前、後及び3か月後の結果を比較したところ、各質問の得点及び合計得点の平均値と標準偏差に差は見られなかった。</p> <p>自分自身の変化に関する項目では、講師経験あり群に、意識面で「自殺やこころの健康問題について関心を持つ」等、態度面で「困っている人に声をかけるなど関心を示すようになった」、行動面で「研修を受けるなどスキルアップを図っている」と答える人が講師経験なし群に比べて多くなっていたが有意差はなかった。</p> <p>標本数が少ないため調査に限界はあるが、ゲートキーパー研修の講師を務めることは、自殺に関する知識の定着、自己効力感の更なる向上及び講師自身のスキルアップにつながる可能性があることが分かった。さらに、研修受講後、速やかに講師としての実践を積む大切さが示唆された。今回の調査により講師養成研修を実施する重要性が示され、今後受講者に講師として、GK養成に積極的に取り組むよう働きかけていきたい。</p>		